

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月31日現在

機関番号：35305

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2012

課題番号：22653111

研究課題名（和文） 日本人を巡る文化受容と伝搬—戦時期日系人社会における教育を中心に

研究課題名（英文） A study of culture reception and the propagation around the Japanese : Education in the Japanese-person society of the wartime period

研究代表者

西井 麻美 (NISHII MAMI)

ノートルダム清心女子大学・人間生活学部・教授

研究者番号：90218107

研究成果の概要（和文）：戦時期のブラジル、アメリカ、アジア（台湾・韓国）では、日系人・日本人社会において、表立った行事や教育カリキュラムとして日本の教育文化活動を行うことは、大変困難であったが、家庭教育・課外学習の領域では、お稽古やしつけなどを通して日本の文化の伝搬がなされていた。また、日系人・日本人社会では、日本語の学習を日本文化の継承と同等に見なしていた。そのことが、現地の人々と日系人社会との間に度々摩擦や誤解を生じる要因ともなり、日系人の文化伝搬に対する弾圧にもなった。その一方で、宗教的慣習については、日系人社会は、むしろ現地社会への融合の手段と見なし、積極敵に受容しようとする姿勢も見られた。また、高学歴の取得も社会融合の一助として把握されていたことが分かった。

研究成果の概要（英文）：In Brazil, United States and Asia (Taiwan, Korea) of the wartime period, it was very difficult for Japanese-people to perform Japanese-style education and cultural activities. However, by home training and the learning out of the subject, propagation of the Japanese-style culture was accomplished through a lesson and discipline. In addition, the Japanese-person considered Japanese learning with the succession of the Japanese culture equally. Therefore friction and misunderstanding often occurred between local people and Japanese-person society, and there was the oppression for the culture tradition of the Japanese-person, too. On the other hand, Japanese descent grasped that religious custom and high academic achievement were help the fusion to the local society.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,400,000	0	1,400,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	420,000	3,220,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：比較教育学 日系人社会 文化受容 ブラジル 伝統芸能

1. 研究開始当初の背景

ブラジルやアジア、アメリカの日系人社会は、基礎教育・高等教育・社会教育の各領域

で独特の文化構造を形作っており、国家との関係においても、教育を通じた独自の文化受容と伝搬の役割を果たしている。

今日の日系人社会における教育の状況としては、基礎教育の段階では、日本語教育などを日系人社会独自のシステムで行い、それが日本文化継承の一翼も担っているが、高等教育の段階では、積極的に現地の大学へ子弟を進学させて、現地との融合が図られており、最も日系人が多い南米などでは、教育熱の高さが日系人の文化的気質と認知されるまでになっている。

また、華道や武道などの伝統的教授や婦人会などの社会教育は、日系人社会内で日本人としての振る舞や礼儀作法といった生活文化の継承を含めた教育活動としても取り組まれている。その一方で、地域へは、伝統文化における流儀の伝搬とあわせ、現地風にアレンジしたインカルチュレーションの形態での普及や促進も行うなどしている。

本研究では、教育を切り口としてブラジルやアジア、アメリカの日系人社会を対象とした比較研究を行うことを通して、教育観などの価値観や文化意識にまで迫りながら、日本人の文化受容と伝搬のあり方について明らかにすることを目的とするが、このような目的設定にいたったのは、次の理由による。

ブラジルにおける日系人の教育研究には、村田翼夫を研究代表とし、本研究代表者西井も加わった「在日経験ブラジル人・ペルー人帰国児童生徒の適応状況の研究」があるが、そこでは、帰国後の学校文化への再適応状況など、南米日系人の文化受容の実態が一部明らかになった。しかし、その調査過程においてブラジルの日系人社会は、日本語の伝承や日本史の学習を日本人としてのアイデンティティの維持の問題として捉えていること、その一方では、生け花などの伝統文化を地域に広め、社会教育活動などを通じて、地域との交流も図られていることを知った。また、インタビューに応じてくださった高齢者の多くは、戦時期の自らや両親の体験として日本文化と教育の伝承についての思い出が印象深く残っていると語っておられた。

これらのことから、日系人の文化受容と伝搬の特徴を知るには、実際の活動や行動選択の裏にある文化意識や価値観まで掘り下げて調査研究を行う必要があると感じたのが、本研究のテーマ設定を行う切っ掛けとなった。

2. 研究の目的

本研究は、ブラジル、アメリカ、アジアの日系人社会における日本伝統文化伝達の諸相を、教育的視点から検討することで、日本人を巡る文化受容・伝搬の特性を明らかにしようとするものである。

対象とする時代は、第二次世界大戦の前後をあわせた戦時期である。この時期には、海

外に入植・定住した日本人・日系人が、日本人としてのアイデンティティを鋭く突きつけられ、日本語教育や日本文化の継承を巡る現地との摩擦など、教育・文化に関する問題が顕在化した。そうした状況の下、日系人が異文化社会の中でいかに独自の教育観や文化意識を形成し、現地地域社会と交流を図ったか、特に日系人社会と植民地期の日本人社会の比較をふまえて考察することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、次の二段階を経て行った。

(1) 本研究テーマに関する分析は、まず、本研究メンバーによるこれまでの研究を発展させる形で行い、同時に、本研究テーマに関連する先行研究・調査に広くあたった。

研究代表者西井は、比較教育学の視点から、ブラジル、アメリカにおける日系人社会を中心に本研究を行った。

研究分担者北原は、比較文化史の視点から、ブラジルやアメリカへの移民問題で貢献した外交官珍田捨己の軌跡を基に本研究を行った。

研究分担者金井ジュリー（西井寿里）は、職業人を中心にした倫理などの文化意識について研究を行った。

研究協力者小林は、アジアにおけるいけ花や茶道のあり方に着目して、日本の伝統文化に関連する文化受容と伝搬の特質を考察した。

研究協力者根川は、珍田を始めとする外交史料の研究に協力した。

(2) ブラジル、アメリカ、アジア（台湾、韓国）に赴き、聞き取り調査や現地視察を行い、合わせて現地の資料収集を行った。

主な訪問先は、次の通りである。

① ブラジル

- ・ 在サンパウロ日本国総領事館
- ・ 在リオデジャネイロ日本国総領事館
- ・ サンパウロ人文科学研究所
- ・ サンパウロ移民資料館
- ・ 松柏学園
- ・ 三水会
- ・ 伊藤忠ブラジル会社
- ・ サンパウロ新聞社
- ・ ニッケイ新聞
- ・ アルファインテル南米交流
- ・ パラナ州立大学
- ・ クリチーバ文援協
- ・ クリチーバ日伯文化援護協会
- ・ クリチーバ文化援護協会・堀内学園
- ・ リオデジャネイロ日伯文化協会

- ・リオデジャネイロ日伯文化体育連盟
- ・Yuchicom社
- ・Rio + 20

②アメリカ

- ・Japan Society
- ・ハーバード大学ケネディスクール学寮

③その他の地域

- ・慶雲会
- ・白楊会
- ・渚会
- ・慶南女子高等学校資料室
- ・舞鶴女子高等学校・同窓会
- ・平壤公立西門高等女学校同窓会
- ・東菜女子高等学校・同窓会
- ・淑明女子高等学校・同窓会
- ・進明女子高等学校・同窓会
- ・培花女子高等学校
- ・梨花女子高等学校博物館
- ・サイパン高等女学校同窓会

上記以外にも、訪問地の日本人・日系人コミュニティや日本（滞日外国人の方など）において、聞き取り調査に、多くの方々の協力をいただくことができた。

4. 研究成果

戦時期を中心に、ブラジル、アメリカ、アジア（台湾、韓国）の日系人社会における日本の伝統文化伝達の諸相を教育的視点から検討し、日本人を巡る文化受容・伝搬の特性について特に次の点について浮き彫りにすることができた。

(1) 戦時期では、日系人・日本人社会において、表だつた行事や教育カリキュラムとして日本の教育文化活動を行うことは、大変困難であったが、家庭教育・課外学習の領域では、お稽古やしつけを通して日本の文化の伝搬がなされていた。

植民地時代における朝鮮と台湾の比較研究では、女学校・高等女学校と生け花・茶の湯といった伝統芸能の伝授を通じての礼儀作法の受容など日本人としての精神修養について明らかにし、当時の植民地における文化・教育への影響を明らかにすることができた。

(2) 日系人・日本人社会では、日本語の学習を日本文化の継承と同等に見なし、日本人としてのアイデンティティの拠り所としていた。このような日系人の意識の実態は、聞き取り調査や現地でも収集した資料からより一層明らかとなった。

しかし、そのことが、特に戦時期において、

現地の人々と日系人社会との間に度々摩擦や誤解を生じる要因ともなり、日系人の文化伝搬に対する弾圧にもなった。

例えば、ブラジルにおいては、日系人社会において、日本語教室や日本人学校が、設置維持されたが、現地の人々からの激しい弾圧の対象となった事実がある。その理由について、裁判資料などから、日本文化の継承のあり方が、日系人がブラジルの国民として融合することを阻む課題として現地の人々から問題視されていたことが分かった。

また、このような動向は、外交史料からも裏付けすることができた。

日本側の史料としては、ブラジルやアメリカへの移民問題で貢献した外交官珍田捨己の軌跡を追う中から、考察することができた。

(3) 宗教的慣習については、日系人社会は、むしろ現地社会への融合の手段と見なし、積極的受容しようとする姿勢も見られた。また、高学歴の取得も社会融合の一助として把握されていたことが分かった。

例えば、ブラジルにおいては、カトリックの習慣として代父母制度があるが、現地の人々が日系人の代父母になることにより、現地社会との関わり方がスムーズにいくことについて、日系人の人々が良く認識していたことが記録に残っている。

宗教観と教育観において、現地の人々と日系人社会との間の文化的アイデンティティの違いがあることも理解できた。

(4) 現地の人々による日本文化受容は、抵抗的文化受容の様相を呈していることが分かった。その切っ掛けになっているのは、戦時期以降の日系人による農業や花栽培などの技術の振興と教育分野でのめざましい進出であるが、それらが牽引役となり、生け花やお茶、習字などの日本の伝統文化全体の評価にも繋がっていつていることが分かった。

本研究の成果については、日本比較教育学会などの研究発表や、洋学史学会などにおける講演の内容などに生かして、社会・国民に伝えるとともに、研究論文、著書においても取り上げ、社会に公表した。

また海外では、次のような成果公表を行った。

(1) 2011年に、ハーバード大学ケネディ・スクール学寮において、教員及びポストクの院生等と意見交流会を行い、そこにおいて、研究成果を披露することができた。

(2) 2012年には、ブラジル・リオデジャネイロ市において開催された「国連持続可能な開

発会議（リオ+20）」への参加をうながす招待をリオ市リオ+20 委員会委員長フランシスコ弁護士よりいただいたため、参加し、同氏主催の地域文化産業と法的倫理に関する公式サイドイベントの場で、日本の教育文化活動に関する情報提供を行い、参加者からは、大きな関心を寄せられた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

- ① 西井麻美、文化受容の視点から見る持続可能な社会に向けた教育、ノートルダム清心女子大学紀要文化学編、査読有、第37巻、2013、95-107
- ② 小林善帆、植民地朝鮮の女学校・高等女学校といけ花・茶の湯・礼儀作法―植民地台湾との相互参照を加えて、日本研究、査読有、第47集、2013、207-237
- ③ 西井麻美、ブラジル日系人の文化教育活動、キリスト教文化研究所年報、査読無、XXXIV、2012、23-37
- ④ 小林善帆、サイパン高等女学校と日本の伝統的文化の受容、マイグレーション研究会会報、査読無、第7号、2012、5-6
- ⑤ 小林善帆、从花道看「満州」都市女性的文化与教育、張学良与一九八事变研究、査読無、2011、587-594
- ⑥ 小林善帆、植民地台湾の女学校といけ花・茶の湯、藝能史研究、査読有、第189号、2010、32-50

〔学会発表〕（計6件）

- ① 北原かな子、弘前の洋学関連資料について、洋学史学会（招待講演）、2012年12月8日、弘前市文化センター、
- ② 西井麻美、ESDとしての震災・復興に係る文化教育活動、日本比較教育学会、2012年6月15日、九州大学
- ③ 金井ジュリー（西井寿里）、持続可能な社会文化、第2回エコな町づくり・人づくりフォーラム（ESDアカデミア会議・岡山）、2012年11月10日、ノートルダム清心女子大学
- ④ 北原かな子、津軽地方における洋学受容、近代史サマーセミナー（第5回）、2012年7月15日、まみのやま温泉
- ⑤ 西井麻美・金井ジュリー（西井寿里）、日本人を巡る文化の受容と伝搬（米国訪問調査をふまえて）、第1回エコな、町づくり・人づくりフォーラム（ESDアカデミア会議・岡山）、2012年3月30日、ノートルダム清心女子大学
- ⑥ 西井麻美、ブラジル日系人の文化教育活動、

日本比較教育学会、2011年6月25日、早稲田大学

〔図書〕（計2件）

- ① 上村敏文、笠谷和彦、西井麻美 他、教文館、日本の近代化とプロテスタンティズム、2013、450
- ② 西井麻美、金井ジュリー（西井寿里） 他、ミネルヴァ書房、持続可能な開発のための教育（ESD）の理論と実践、2012、291

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西井 麻美 (NISHII MAMI)
ノートルダム清心女子大学・人間生活学部
教授
研究者番号：90218107

(2) 研究分担者

北原 かな子 (KITAHARA KANAKO)
青森中央短期大学・看護学科・教授
研究者番号：80405943
金井ジュリー（西井 寿里） (KANAI JURI
(NISHII JURI))

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

小林 善帆 (KOBAYASHI YOSHIHO)
国際日本文化研究センター共同研究員
根川 幸男 (NEGAWA SACHIO)
ブラジリア大学・准教授/日本国際文化研
究センター共同研究員